

1971年6月17日第三種郵便物認可(毎月六回5の日・0の日発行)  
SSK 無何有郷通信 2020年6月30日発行 SSK通巻第5440号

SSK

わかうのさとつうしん  
社会福祉法人土州水土舎  
LETTERS FROM NOWHERE  
知的障害者授産施設水土舎  
2020年6月30日

# 無何有郷通信

通巻28号



- ◇ 知的障害者施設の授産活動～その限界と将来性を見つめて～
- ◇ 雑感: 新型コロナウイルス禍と水土舎
- ◇ 知的障害者同士の恋愛、結婚、妊娠、子育て。



知的障害者施設の授産活動

〜その限界と将来性を見つめて〜

赤城屋工場長青木正利

すでに旧聞に属する話ですが、五年前、厚労省は猶予期間を五年措いて、食品表示ラベルの一新を図りました。その猶予期限は今年3月末日で切れました。

水土舎のハム・ソーセージ・ローストビーフは、赤城屋というブランド名の下、普通の知的障害者施設では考えられないような、大手のデパートや通販会社と取引してきました。

我々の商品製造の原則は・・・

- ① 授産製品には商品力があまり無いので、稀に障害や障害者が唯一無二の販促材料という『お賽銭下さい商品』『お涙下さい。』がある、それには与しない。
- ② 商品力と市場性で他の一流企業と伍して営業戦略を練り、商戦を展開する。

お世話になったあの人に、大切なあの人に、お礼と感謝の気持ちに添えて、**お中元は赤城屋のハム・ソーセージとローストビーフを。**今年も無何有郷のご購読者に、特価でご奉仕しています。よろしく、お願い申し上げます。**ジャムセットと有精卵も**ございます。

- ③ その際、障がい者施設の商品であることを露出狂的或いは自虐的に公開せず、決して公言もしない。一流会社の商取引の世界には、障がい者の授産製品だからという福祉バザー的な甘えや阿りの全く通用しない厳しい現実がある。

- ④ 従って一切の福祉屋の甘えの精神や構造と決別し、利用者さんを一人の職人として遇し、お客様第一主義を貫徹する。第一項で言う障害者が販促材料であるということとは、すなわち『障害者の障害者

性』の商品化であり、障害者の障害者性商品価格が付けられたことと同義です。人は障害者が作った say 饅頭が美味そうだからお金を出すのではなく、障がい者が作った饅頭だから、その**可哀そうな半人前**の(障害者性とはこういうことです)障害者の涙ぐましい努力に対してお金を払うのです。実際は涙ぐましい努力をしていない場合も間々散見されますが、施設職員の甘いやい加減さやインセンティブの無さとそれを生み出す福祉施設の授産の構造的な欠陥や問題点に言及しなければならぬので、ここでは不問としておきます。



さて障害者製の饅頭ですが、人は見た目がキレイで美味しそうだから購買意欲が掻き立てられたのではありません。障害者の障害者性が価格に転嫁され、





と感謝の気持ち  
すら我々は感じ  
ています。  
その三者を初  
めとする一流ど  
ころから、ラベ  
ルの話抜きで、  
半期後或いは一

赤城屋(水土舎)を高級な食肉加工製品  
を作っている組織として認める、が、沮喪  
をしたら一発で取引を停止する、商品価値  
を貶める事態になっても同じだ、という一  
流のバイヤー諸氏の厳しい姿勢に我々は  
満腔の共感を覚えます。  
福祉を語らず、それだからこそバイヤー  
各氏の福祉に対する並々ならない関心と  
理解が伝わってきます。しかし、手抜きは  
一切させないぞ、我々の要求に答えられな  
いなら何時でも切る、お客様にソッポを向  
かれるようなら取引は終わりだ、という厳  
しい姿勢に共感

年後の新商品の提案提出の  
打診が次々に舞い込んだの  
です。  
一流会社のバイヤー諸氏  
の、社会の消費動向や趨勢を  
見極める厳しいまなかいや  
市場の分析の確かさ、お客様  
が障害者施設製造の商品を  
どのように考え、従来のよう  
に購買意欲を掻き立てられ、  
その商品価値を他の有名な  
一流企業製造の商品と同列  
に見てくれるのか、それを分  
析する高い職業意識と蓄積  
された商品知識に裏打ちさ  
れたバイヤー諸氏の冷徹な  
見通しや見識や判断力、新商  
品提案要請はその結果が示  
された瞬間でした。  
社会もお客様の意識も、我々  
が懸念した有象無象を凌駕

「敬遠される」いらぬ心配だった

「肉本来のうまみ」が味わえるのは、障  
害者が一つずつ手間かけて仕上げたから  
——。大丸松坂屋百貨店がネット通販で扱  
うハム・ソーセージ5種セット。つくるの  
は、障害者の自立支援を担う社会福祉法人  
「上州水土舎」（群馬県富岡市、金谷通運  
事務長）だ。発色剤を使わず、新鮮な群馬県  
産肉を新鮮なちに加工する。価格は税込  
み3240円。

上州水土舎は、「障害者が働ける場を」  
と1999年に発足した。金谷さんが、ハ  
ム・ソーセージの製造工程を本場ドイツ・  
ミュンヘンで学んだ知人と立ち上げた。い  
まは、障害者が肉さきや惣菜の箱詰めな  
どをし、職員の作業を助けている。  
だがこの1年近く、金谷さんには悩まし  
い日々が続いていた。

それは食品表示法の施行だった。これまで  
商品のラベルに製造者名を載せる必要は  
なく、「障害者」が表に出ることはなかった。  
表示法は、消費者向けの加工食品は  
基本的に製造者名や工場所在地の表示が義  
務づけられ、今年3月末までに対応しな  
ければならなかった。

社会福祉法人と明示すれば、「障害者施設  
製の製品」と消費者に敬遠される可能性が  
あると恐れ、「百貨店が取引をやめてしま  
うのではないかと」懸念は強かった。しま  
し結局は表示法にのっとり、「社会福祉法  
人上州水土舎」と表記するこじした。

全日版  
2020年(令和2年)  
3月21日  
土曜日  
リン事件25年  
地下鉄サリン事  
件から25年。被害  
者の先頭になって  
きた高橋シズエさ  
んの娘、美雪さん  
は、母とは「真逆  
に」過ごしてき  
た。 28

ローストビーフを箱詰めする障  
害者ら=2019年12月16日、群馬  
県富岡市後賀、野口拓朗撮影

けいざい+ 障害者がつくるハム

ご意見は keizai@asahi.com

心配は取り越し苦労だった。昨年末のお  
歳暮商戦で高島屋向けの商品ラベルに初め  
て製造者名を入れたが、売り上げは前年実  
績並み。胸をなでた。取り扱って  
後、これまでと同じように販売している。

大丸松坂屋の担当者は「おいしさが最優  
先。つくるのが障害者の方が否かは今も問  
題とていない」と言い切る。高島屋やそ  
ごう・西武の通販でも、製造者名を入れた  
後、これまでと同じように販売している。

かつては障害者がつくる商品を販売でき  
る場所は、それほど多くなかった。市場へ  
の浸透が進む背景には、持続可能性や多様  
性への意識の高まりがありそうだ。

高島屋は今年のバラエティ商品に、一  
般社団法人パルカクルフ（愛知県豊橋  
市）の「久遠チヨコレ」を採用した。  
品質へのこだわりと、障害者ら多様な人材  
が生み出したことがアピールポイントだ。  
「社会貢献もできる」と、好評だった。

上州水土舎の従業員は、障害者約80  
人を含め、計約140人。2000年に約  
3千万円だった年間売上高は、約8千万円  
に増えた。金谷さんは肉さきを視野に入  
展開として「社会参加の機会を広げ、やり  
がいや生きがいにつなげた」。

(野口拓朗、佐藤孝)

認知症 預金おろしたいけど

認知症になると、自分の預金口座でもお金を  
おろせなくなることが多い。親族らがそうなっ  
た際、身内はおろせるのか。全国銀行協会の資料  
で、対応に悩む現場の姿がわかった。 3.4

こだわりハム 多様な作り手

肉本来のうまみを生かし、障害者  
が一つずつ手間かけて仕上げたハ  
ム。生産者の不安はある法律の施行  
に伴う消費者の反応だった。 4

パンデミック 世界はいま

新型コロナウイルスの感染拡大

していました。社会は障害者施設の商品に対する偏見や謬見を、想像以上に取り除いていることに気づかれました。

ヘイトスピーチに見られるような差別や偏見はまだまだ社会に蔓延っています。が、このバイヤーさんの静かで冷徹な判断には刮目させられ、勇気付けられます。

我々は直ちに、新ラベルへの変更のために新しいラベルプリンターを発注しました。不義理を何度も行ない、ご迷惑を何度もかけてしまいました。また首の皮一枚で日本社会の商戦のトップランナーの皆さまと繋がっている幸せを改めて感じ、身の引き締まる思いを新たにしています。我々はこの良好な関係を崩すことなく、ずっと維持発展させていきたい、そのために商品製造全般について更にブラッシュアップし、バイヤーさんのお眼鏡にかなう商品、それはとりもなおさずお客様の要望に添った商品ということになります。そ

れを心がけて行こうと新たに決意しています。



雑感：新型コロナウイルス禍と水土舎

柳沢 赴

既に昨年12月には武漢で発生していたとされる新型コロナウイルスの感染が今や世界中で猖獗を極め、最近では世界の一日の感染者数は22万人を超えています。

日本でも衰える気配はなく、東京ではむしろ増えおり、水土舎の利用者さんの生活にも『自粛』

の影が落ちて  
ています。

水土舎は

何を考え、

何を行い、

或いはこれ

からの対策

をどうする



のか、ここに報告し、大方のご叱正を仰ぎたいと思います。

三蜜回避のため、外出から施設やGHに帰った際は、必ず手洗い、うがい、アルコール消毒、検温が生活の基本となり、また、外出が大きく制限されています。

水土舎では、全利用者さん85名中、52名(61%)がGHを利用して自立した地域生活を送っています。

また、GH内にはその他に10名の企業就労者(水土舎利用を経て企業に就労した人たちが)が生活しています。またGHの支援員さんや世話人さんが20数名います。

水土舎ではコロナ対策を、GH関係者(利用者職員)とその他で分けて考えています。前者は移動範囲をGHと施設に限



定し、GH関係者が三密を回避する方策として、食材提供会社から食材を宅配してもらい、その他日用品の購入は施設で一括購入し、各GHに配布しています。

金太郎飴のようにどこも同じ食材と献立で調理するので、画一化された料理になると懸念しましたが、実際はうれしい誤算でした。水土舎のハム屋の跳ね出しとよろず屋(前橋の施設)の惣菜と肉を原価で提供してもらい、それらを食材提供会社の食材に加えて食事を準備してもらっています。かなりバラエティがあり、そこそこGH間の差が出たので、嬉しい驚きでした。

休日の嗜好品の買い物は、GHで煮詰まっている利用者さんを各職員が手分けして車で連れ出し、買い物は予めリクエストを集約しておいて職員だけが店内で買ってきています。

それでも、約束事を守らず出かけて行ってしまいう利用者さんは必ずいます。彼ら約

束不履行・逃亡者を今のところ阻止する手立てはありません。

GHの利用者さんは市内への買い物や図書館利用などの自由な行動は大幅に制限され、移動支援利用の映画鑑賞や外食などの余暇活動も現在は中止です。

外部のボランティアの皆さまとの交流の場であり、毎年Hの班長会を始めとして二百人くらいのボランティア参加のある「田植え祭り」も創立20年目にして初めて中止のやむなきに到り、今年は利用者さんと職員だけの寂しい田植えとなりました。

水土舎では日頃からより多くの機会を捉えて世間と接触し、何らかの形で日常的に社会参加の真似事くらいは行いたいという考え方の下に、日替わりで二三の販売ルートを設定し、スーパーや道の駅等の店舗、市町村等の行政機関、老人施設等での商品販売や、商品の委託販売をお願いして



What have we learned from covid-19? Trust science Follow scientific advice Take it seriously! It can be done! 科学を信じろ、科学的忠言を聞け、と主張する瑞典の校長先生

いるお店にルートセールスするなどの営業活動を行っています。利用者の皆さんにとっては地域の人たちと触れ合うまたとない機会ですが、参加希望が多いので順番を決めて出かけます。

感染拡大前は可能だった様々な余暇時間の有効活用が今は不可能となり、GHの皆さんは無聊を慰める方策としてありません。

グループホームを利用している一般就労者の中には仕事が激減し、精神的に落ち

込んでいる人もいます。幸いそのような人たちは、かつて自身も利用していた水士舎の施設で仲間と共に授産仕事を行い、社会的な孤立に陥ることもなく、工賃も幾ばくかは稼いでいます。

我々職員も自分が感染源とならないように日々自覚的に感染回避の行動を取るべく努め、自己の生活の場における活動を厳しく律しています。

水士者では今回のコロナ騒動を奇貨として、物事には様々な見方があること、物ごとを一面的にとらえるのではなく、複眼的に捉えることの重要性を、我々の非力・未熟を承知で利用者さんに伝えるべく努力しています。

例えば生物学者の福岡信一氏の動的平衡論とウイルスの利他的な役割の説明は、非常に興味深いものです。

氏によれば、ウイルスを目に見えないテロリストとばかりに恐れる必要は無い、『ウイルスは私たち生命の不可避的な一

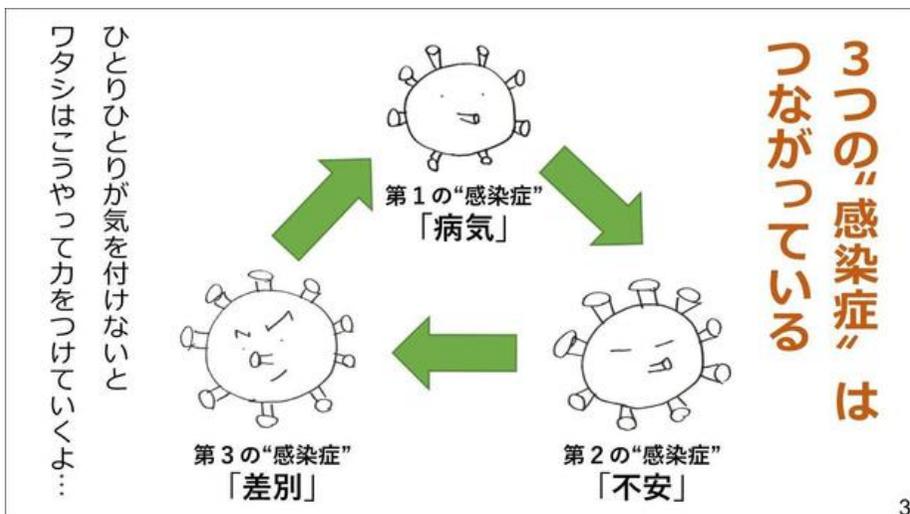
部であるがゆえに、それを根絶したり撲滅したりすることはできない。私たちはこれまでも、これからもウイルスを受け入れ、共に動的平衡を生きていくしかない。』ということですが、これを分かりやすく、利用者さんに伝える努力をし、ウイルスと人間との相互性を説明しました。また、水士舎では早くから毎年のインフルエンザとの関連でコロナを捉えています。

一昨年(2018年)のインフルエンザの死者は3325人、昨年の上半期のそれは3209人という厚労省の統計があります。明らかに今回のコロナより多数です。

1918年のスペイン風邪では、当時の世界の人口は8億人でしたが死者は400万人に達し(信じがたい数字です、全地球人口の実に5%です)、この時の感染者は全地球人口の3割前後と言われています。

卑近なところでは学生運動が世界的規模で荒れ狂った1968年、この年は様々盛りだくさんでした、アメリカ北爆停止、全共闘

運動、フランス五月革命(ドゴールの退陣)、Rケネディ暗殺、キング牧師暗殺、日本初の心臓移植手術、ビートルズ旋風、プラハの春とソ連の軍事介入、有人宇宙船アポロ



打ち上げ、国際反戦デーで騒乱罪適用、三億円事件、、、この時代、だれもインフルエンザが猛威をふるい400万人(世界人口35億の実に0.11%)が死亡したことなど覚えていないでしょう。日本では13万人が感染し、千人が死亡しています。

保守の論客佐伯啓思氏は、朝日新聞紙上(7月2日)で次のような興味深い発言をしています。

コロナは統計学的に見ればそれほど恐れるほどのものではない。東京の感染者数を無症状者も含めて6千人とすれば、人



口140万人の0.05%にも満たない。死者数は300人強だ。感染確率は高くとも0.02%である、一方日本の年間のインフルエンザによる直接間接の死者数は1万人、2018〜2019年の感染者数は1200万人超である。

そして、我々は常に生か死かの実存状況に曝されているが、その病状の分り難さや急激な重症化、また回復者の既得権益である免疫効果が短期間で急激に失われてしまうなどの報告も相次ぎ、我々は統計では把握できない底知れない不気味さや恐怖を感じている、として日本人の死生観や無常観に論を展開していきます。

今回のコロナは、統計では実感できない恐怖を我々の脳裏に埋め込んでいます。対象療法的な付け焼刃の薬は各国で開発中らしいですが、ワクチン製造は数年後になると予想されています。

現状では、トランプ流の風邪の一種という極端な楽観論と、コロナにまつわる深刻な不安と懼れの両極の間で世論は大揺れ

ですが、水士舎では一人でも感染者を出さないために、神経質であり過ぎるということはないと考え、三密回避の基本路線堅持に愚直なまでに固執しようと考えています。

ある不安や恐れを哲学した碩学は、死に対する不安は人間的な感情だ、だが死の不安や恐怖を無理やり抑圧できるのも他の動物とは違う人間の特徴だ、と喝破しています。

そして、以上のような複眼的な見方を利用者の皆さんに分かりやすく伝えていくと我々は日々試行錯誤しています。決してうまくいってはいませんが、ウイルスと宿主(人間)との不可抗的不可避的な繋がりや、ウイルスの積極的な有意味性をも伝えていこうと考えています。了

※ ☆ ㊦ ㊧ ㊨ ㊩

## 資金収支2019年度補正予算&amp;2020年度予算

令和 2年 3月31日

(単位：円)

勘定科目	19年度補正予算	増減	20年度予算	
			予算現額	補正後予算額
事業活動による収支				
収入				
就労支援事業収入	45,935,936	51,841,936	5,906,000	87,340,000
障害福祉サービス等事業収入	195,608,704	204,771,034	9,162,330	226,482,220
その他の事業収入	350,000	716,000	366,000	8,507,750
受取利息配当金収入	5,000	6,000	1,000	12,709
その他の収入	1,011,014	1,111,014	100,000	1,085,321
事業活動収入計(1)	242,910,654	258,445,984	15,535,330	323,428,000
支出				
人件費支出	127,613,249	121,894,249	△5,719,000	145,529,704
事業費支出	54,328,976	46,354,626	△7,974,350	60,798,281
事務費支出	9,778,158	9,369,748	△418,410	11,008,321
就労支援事業支出	66,482,143	59,881,143	△6,601,000	66,483,551
支払利息支出	259,030	231,130	△27,900	402,030
その他の支出	823,610	680,410	△143,200	848,985
事業活動支出計(2)	259,285,166	238,381,306	△20,903,860	285,100,882
施設整備等補助金収入	△16,374,512	20,064,878	36,439,180	38,237,118
施設整備等収入計(4)	0	1,560,000	1,560,000	0
設備資金借入金元金償還支出	5,190,980	4,634,980	△496,000	5,478,507
固定資産取得支出	10,050,000	12,522,000	2,472,000	6,650,000
施設整備等支出計(5)	15,240,980	17,218,960	1,978,000	12,128,507
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△15,240,980	△15,656,960	△416,000	△12,128,507
種立資産取崩収入	0	540	540	50,000
その他の活動による収入	10,000	27,000	17,000	12,000
その他の活動収入計(7)	10,000	27,540	17,540	62,000
その他の活動による支出	242,000	155,000	△87,000	195,000
その他の活動支出計(8)	242,000	155,000	△87,000	195,000
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△232,000	△127,460	104,540	△133,000
子備費支出(10)	0	0	0	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△31,847,472	4,280,258	36,127,730	25,975,611
前期末支払資金残高(12)	304,309,179	304,309,179	0	0
当期末支払資金残高(11)+(12)	272,461,707	308,589,437	36,127,730	25,975,611

## 令和元年度資金収支補正予算&amp;令和新年度予算

(単位：円)

令和 2年 3月31日		19年度補正予算	20年度予算	
勘定科目		事業区分合計	事業区分合計	
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	51,841,936	87,340,000
		障害福祉サービス等事業収入	204,771,034	226,482,220
		その他の事業収入	716,000	8,507,750
		受取利息配当金収入	6,000	12,709
		その他の収入	1,111,014	1,085,321
		事業活動収入計(1)	258,445,984	323,428,000
	支出	人件費支出	121,894,249	145,579,704
		事業費支出	46,354,626	60,798,281
		事務費支出	9,359,748	11,098,321
		就労支援事業支出	59,851,143	66,463,551
		支払利息支出	231,130	402,030
		その他の支出	690,410	848,995
	事業活動支出計(2)	238,381,306	285,190,882	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		20,064,678	38,237,118	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	1,560,000	0
		施設整備等収入計(4)	1,560,000	0
	支出	設備資金借入金元金償還支出	4,694,960	5,478,507
		固定資産取得支出	12,522,000	6,650,000
施設整備等支出計(5)	17,216,960	12,128,507		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△15,656,960	△12,128,507	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	540	50,000
		拠点区分間繰入金収入	0	12,000
		その他の活動による収入	27,000	0
		その他の活動収入計(7)	27,540	62,000
	支出	拠点区分間繰入金支出	0	
		その他の活動による支出	155,000	195,000
		その他の活動支出計(8)	155,000	195,000
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△127,460	△133,000	
予備費支出(10)		0	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		4,280,258	25,975,611	
前期末支払資金残高(12)		304,309,179		
当期末支払資金残高(11)+(12)		308,589,437	25,975,611	

法人単位貸借対照表 決算  
令和 2年 3月31日現在

(単位：円)

	資 産 の 部		増 減	負 債 の 部		増 減
	当年度末	前年度末		当年度末	前年度末	
流動資産	321,888,019	317,345,591	4,342,428	11,659,682	10,737,731	921,931
現金預金	238,914,935	286,372,557	△27,457,622	4,881,545	4,458,861	402,684
事業未収金	75,724,656	42,211,301	33,513,355	4,694,000	4,694,000	0
貯蔵品	0	955,770	△955,770	51,476	29,098	22,378
商品・製品	2,741,596	3,420,677	△679,078	2,052,641	1,555,772	496,869
仕掛品	7,456	19,080	△11,624	9,893,408	14,548,920	△4,653,512
原材料	3,307,252	2,597,154	710,098	9,030,000	13,724,000	△4,694,000
立替金	132,453	26,890	105,563	883,408	822,920	40,488
前払金	713,318	1,742,162	△1,028,844	21,553,070	25,284,651	△3,731,581
仮払金	146,350	0	146,350			
固定資産	314,882,971	328,874,493	△13,991,462	27,884,319	27,884,319	0
基本財産	202,982,703	212,839,516	△9,852,813	27,884,319	27,884,319	0
土地	56,556,494	51,256,494	5,300,000	125,519,064	139,727,031	△14,207,967
建物	146,426,209	161,579,022	△15,152,813	125,519,064	139,727,031	△14,207,967
その他の固定資産	111,900,268	116,038,917	△4,138,649	55,412,356	55,412,898	△540
建物	35,037,997	41,951,072	△6,913,075	7,500,000	7,500,000	0
構築物	5,743,051	6,372,647	△629,596	6,000,000	6,000,000	0
機械及び装置	5,924,226	5,897,842	26,384	17,512,356	17,512,898	△540
車両運搬具	3,999,004	2,098,988	1,900,036	8,000,000	8,000,000	0
器具及び備品	4,248,896	2,808,677	1,438,222	9,000,000	9,000,000	0
建設仮勘定	151,588	151,588	0	900,000	900,000	0
権利	187,989	209,777	△21,808	1,000,000	1,000,000	0
自動車リサイクル預託金	179,432	158,192	21,240	5,500,000	5,500,000	0
長期貸付金	136,356	136,356	0	408,202,179	397,911,125	8,291,054
退職給付引当資産	863,408	822,920	40,488	408,202,179	397,911,125	8,291,054
出資金	18,000	18,000	0	8,500,514	30,005,969	△23,505,455
その他の積立資産	55,412,358	55,412,898	△540	615,017,920	620,935,373	△5,917,453
資産の部合計	636,570,990	646,220,024	△9,649,034	636,570,990	646,220,024	△9,649,034
				純資産の部合計		
				負債及び純資産の部合計		

期注  
1. 減価償却費の累計額 352,686,235円

社会福祉事業 貸借対照表内訳表決算  
令和2年3月31日現在

勘定科目	水戸地区区分	マツノ・もんじゅ地区区分	よろず地区区分	視点区分	こすもろ地区区分	船泉地区区分	合 計	内部取引消去	事業区分合計
流動資産	30,865,475	100,634,651	31,830,496	61,437	144,951,415	52,044,810	360,326,547	△38,638,828	321,688,019
現金預金	7,072,990	93,477,089	61,437	87,238,464	87,238,464	50,514,935	238,914,935	0	238,914,935
事業未収金	8,652,980	7,124,802	30,551,704	28,008,795	28,008,795	1,386,375	75,724,656	0	75,724,656
商品・棚品	2,636,032	0	115,567	0	0	0	2,751,599	0	2,751,599
仕掛品	7,456	0	0	0	0	0	7,456	0	7,456
原材料	3,180,751	0	126,501	0	0	0	3,307,252	0	3,307,252
立替金	25,266	0	107,187	0	0	0	132,453	0	132,453
前払金	300,000	32,760	294,080	0	86,478	0	713,318	0	713,318
拠点区分間貸付金	9,000,000	0	24,000	0	29,614,828	0	38,638,828	△38,638,828	0
仮払金	0	0	0	0	2,830	143,500	146,330	0	146,330
固定資産	93,203,104	31,705,914	6,595,784	6,595,784	147,089,097	36,291,072	314,882,971	0	314,882,971
基本財産	36,387,159	21,151,896	0	0	110,956,526	34,487,122	202,982,703	0	202,982,703
土地	19,445,000	480,000	0	0	31,181,494	5,450,000	56,556,494	0	56,556,494
建物	16,942,159	20,671,896	0	0	79,775,032	29,037,122	146,426,209	0	146,426,209
その他の固定資産	56,815,945	10,554,018	6,595,784	6,595,784	36,132,571	1,803,950	111,900,268	0	111,900,268
建物	955,007	5,132,672	5,289,462	5,289,462	22,457,506	1,203,350	35,037,997	0	35,037,997
構築物	4,889,281	223,767	0	0	630,003	0	5,743,051	0	5,743,051
機械及び装置	5,313,670	2	610,534	0	0	0	5,924,226	0	5,924,226
車両運搬具	3,906,609	29,335	63,060	0	0	0	3,999,004	0	3,999,004
器具及び備品	2,289,480	4	4	4	1,356,811	600,600	4,246,899	0	4,246,899
建設仮勘定	0	0	0	0	151,568	0	151,568	0	151,568
権利	0	0	0	0	187,969	0	187,969	0	187,969
自動車リースリース金	102,242	66,470	10,720	0	136,356	0	179,432	0	179,432
長期貸付金	0	0	0	0	0	0	136,356	0	136,356
退職給付引当資産	639,656	101,768	101,984	0	863,408	0	863,408	0	863,408
その他の流動資産	0	0	18,000	0	0	0	18,000	0	18,000
貸借の部合計	38,700,000	5,000,000	300,000	38,424,280	112,127,358	88,335,882	55,412,358	△38,638,828	55,412,358
長期負債	124,068,579	132,340,565	9,790,042	9,790,042	292,420,512	675,209,818	675,209,818	△38,638,828	636,570,990
事業未払金	4,816,768	2,866,018	9,790,042	9,790,042	31,711,854	50,298,490	111,659,662	0	111,659,662
1年内返済予定設備貸付金	3,193,493	885,422	713,788	713,788	62,883	5,979	4,861,545	0	4,861,545
預り金	29,099	1,790,000	0	0	2,904,000	0	4,694,000	0	4,694,000
繰上り金	1,594,176	190,596	76,254	0	22,377	9,021	2,052,641	0	2,052,641
拠点区分間借入金	0	0	9,000,000	0	182,594	0	9,182,594	△38,638,828	0
固定負債	639,656	3,681,768	101,984	101,984	5,450,000	29,638,828	9,893,408	0	9,893,408
設備貸付金	639,656	3,580,000	101,984	101,984	5,450,000	0	9,030,000	0	9,030,000
退職給付引当金	0	101,768	0	0	0	863,408	863,408	0	863,408
負債の部合計	5,476,424	6,547,786	9,892,026	9,892,026	8,621,834	29,653,828	60,191,898	△38,638,828	21,553,070
基本金	27,884,319	0	0	0	67,252,914	0	27,884,319	0	27,884,319
国庫補助金等特別積立金	20,385,244	14,256,142	2,497,238	2,497,238	67,252,914	21,127,506	125,519,064	0	125,519,064
国庫補助金等特別積立金	20,385,244	14,256,142	2,497,238	2,497,238	67,252,914	21,127,506	125,519,064	0	125,519,064
その他の積立金	38,700,000	5,000,000	300,000	300,000	11,312,358	0	55,412,358	0	55,412,358
車両購入積立金	7,500,000	0	0	0	0	7,500,000	0	7,500,000	
機械購入積立金	6,000,000	0	0	0	0	6,000,000	0	6,000,000	
修繕費積立金	7,300,000	0	0	0	10,212,358	0	17,512,358	0	17,512,358
運営費積立金	3,000,000	5,000,000	0	0	0	0	8,000,000	0	8,000,000
備品購入積立金	9,000,000	0	0	0	0	0	9,000,000	0	9,000,000
人件費積立金	900,000	0	0	0	1,000,000	0	1,000,000	0	1,000,000
建物購入積立金	0	0	0	0	0	0	5,500,000	0	5,500,000
遊具設備整備積立金	5,000,000	0	500,000	0	204,935,406	37,554,548	406,202,179	0	406,202,179
次期繰越活動増減差額	31,622,992	106,536,637	25,534,996	25,534,996	204,935,406	37,554,548	406,202,179	0	406,202,179
次期繰越活動増減差額	31,622,992	106,536,637	25,534,996	25,534,996	204,935,406	37,554,548	406,202,179	0	406,202,179
(うち当期活動増減差額)	18,592,891	△29,814,836	19,530,891	19,530,891	△7,252,262	2,798,140	6,500,514	0	6,500,514
繰越剰余金	118,592,155	125,792,779	28,535,254	28,535,254	283,418,678	58,682,054	615,017,920	0	615,017,920
純資産の部合計	124,068,579	132,340,565	38,424,280	38,424,280	292,040,512	88,335,882	675,209,818	△38,638,828	636,570,990

社会福祉事業 事業活動内訳表 決算  
(自)平成31年4月1日(至)令和2年3月31日

(単位:円)

サトビス活動増減の部	サトビス活動費用	サトビス活動増減差額(3)=(1)-(2)	勘定科目				サトビス活動増減差額(10)=(8)-(9)	特別増減の部	繰越活動増減差額の部		
			収支差種差額	土管拠点区分	アド・コム	ようす				ごすも	電泉
サトビス活動増減の部	費用	△30,871,790	役員支種差額	47,784,878	0	6,447,258	0	54,211,837	△2,371,842	51,890,095	
			贈答福祉サービス等事業収益	47,295,831	43,128,280	21,638,430	83,308,006	9,478,741	204,750,208	0	204,750,208
			その他の事業収益	0	685,984	30,000	0	20,000	715,984	0	715,984
			その他の収益	25,308	12,582	49,180	0	0	87,050	0	87,050
			サトビス活動増減差額(1)	94,985,817	43,806,868	28,164,928	83,308,086	9,498,741	288,774,159	△2,371,842	287,402,317
			人件費	48,446,885	16,741,224	19,410,470	33,331,718	4,078,872	122,007,229	0	122,007,229
			事業費	16,809,539	2,510,512	7,474,538	20,134,512	1,984,111	48,693,210	△2,371,842	46,321,868
			事務費	8,053,749	80,308	745,273	457,774	783	9,327,888	0	9,327,888
			役員支種事業費用	50,136,543	0	10,649,506	10,738,158	0	60,788,049	0	60,788,049
			国庫補助金等特別積立金取崩額	7,385,168	5,172,994	801,154	10,738,158	1,983,384	26,530,834	0	26,530,834
サトビス活動増減の部	費用	△30,871,790	その他の費用	△6,289,721	△2,798,721	△30,657	△6,119,558	△1,288,247	△15,767,867	0	△15,767,867
			サトビス活動費用計(2)	25,308	12,582	49,180	0	0	87,050	0	87,050
			受取利息配当金収益	1,788	83	114	201	32	2,201	0	2,201
			その他のサトビス活動外収益	823,305	194,310	63,558	5,010	20,980	1,107,164	0	1,107,164
			サトビス活動外収益計(4)	825,091	194,378	63,673	5,211	21,012	1,109,385	0	1,109,385
			支払利息	0	112,770	0	117,928	0	230,698	0	230,698
			その他のサトビス活動外費用	422,410	194,310	63,558	5,010	2,730	688,019	0	688,019
			サトビス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△30,871,790	22,087,886	△10,661,538	24,785,485	6,718,883	251,674,293	△2,371,842	249,302,451
			サトビス活動外費用計(5)	422,410	307,080	63,558	122,938	2,730	918,717	0	918,717
			サトビス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	402,881	△112,702	114	△117,727	18,282	190,648	0	190,648
特別増減の部	収益	△30,489,108	施設整備等補助金収益	1,580,000	0	0	0	1,580,000	0	1,580,000	
			拠点区分間繰入金収益	50,000,000	0	32,000,000	0	0	82,000,000	△82,000,000	0
			拠点区分間繰入金費用	51,580,000	0	32,000,000	0	0	1,580,000	△82,000,000	1,580,000
			国庫補助金等特別積立金積立額	1,580,000	0	0	32,000,000	0	32,000,000	0	1,790,000
			その他の特別増減	0	1,790,000	0	0	0	1,790,000	0	1,790,000
			特別費用計(9)	1,580,000	△51,780,000	0	32,000,000	0	85,350,000	△82,000,000	3,350,000
			特別増減差額(10)=(8)-(9)	50,000,000	△51,780,000	32,000,000	△32,000,000	0	△1,780,000	0	△1,780,000
			当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	19,530,891	△28,814,836	21,338,581	△7,352,282	2,798,140	6,500,514	0	6,500,514
			前期繰越活動増減差額(12)	19,091,701	136,351,473	4,198,415	212,305,128	34,753,408	399,701,125	0	399,701,125
			当期繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	31,882,592	108,536,637	25,534,996	204,952,886	37,554,548	408,201,639	0	408,201,639
基本金取崩額(14)	0	0	0	0	0	0	0	0			
その他の積立金取崩額(15)	0	0	0	540	0	540	0	540			
その他の積立金積立額(16)	0	0	0	0	0	0	0	0			
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	31,882,592	108,536,637	25,534,996	204,953,406	37,554,548	409,202,179	0	409,202,179			

知的障害者同士の恋愛、結婚、妊娠、子育て。

水土舎GH世話人会一同  
&木暮俊英

平成20年、私は偶然街で知り合った男性障害者に、療育手帳と年金の取得、それから企業就労を手助けしました。H22年頃、彼は職場で出逢った境遇の似ている知的障害を持つ女性と意気投合、二人は恋に落ち、二年後(H24年)女性は妊娠しまし



た。目出度い、命の誕生を素直に寿ぎたい、そう素直に感じました。

彼らはともに中学の養護学級を卒業後一般企業に就職、それからは福祉との縁が切れ、直に療育手帳を紛失、二十歳になった時の年金申請も知らずに福祉的支援と無縁の生活を送ってきました。

彼の方は姉が嫁いで以降、アル中の父親との二人暮らし。彼女の方は季節労働で僅かばかりの収入を得る父親と、万年無職の母親、障害を持つ二人の弟妹の5人家族。ともに貧困家庭で育ち、二人とも30歳にして一家の大黒柱となっていました。

私が二人から妊娠の相談を受けた時は妊娠九週目、医師からは墮胎するならあと二週間しか猶予はないと通告されていました。周囲の反対の大合唱の中、二人の出産子育ての意志は固く、絶対生みたいと周囲の猛反対に涙で抗議していました。



水土舎ではまず児相と社会福祉協議会に相談しましたが、特別なプログラムはない、産むなら乳児院がありますよ、と婉曲に示唆されました。

因みに障害のある乳児の医療乳児院の利用率はこの二十年で2.4%から約27%と11倍に増えており、虐待、ネグレクト、精神の障害を理由に入所してくる乳児は全体の50%に達しています。このうち両親双方か一方が精神と知的に障害のある入所者は29年度の調査では1147例中394例(34%)であり、乳児院からの退所者の三分の一は養護施設に引き取られるのが現状です(平成29年度全国乳児院入所状況調査報告より)。

我々水土舎では幼くして親元を離れ、乳児院から養護施設をたらい回しされて暮らしてきた利用者さんが結構います。盆暮れに実家に帰る利用者さんは、全グループホーム定員62名のうち、半数くらい。後は様々な理由で帰省しません、そのうちの二割程度は帰省先のないハイマートロ―ゼ故郷喪失者です。

余談ですが朝日新聞社が各地の児相に問い合わせた平成25～28までの棄児(捨て子、保護時に親が不明)を調査した記録があります。この4年間で58名でした。



同時期  
の置き  
去り児  
童(保  
護され  
た時に  
親が判  
明した  
例)は

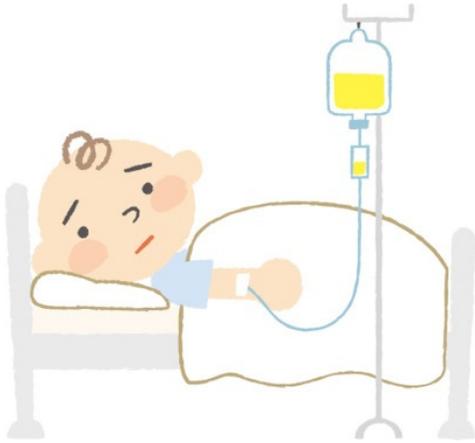
589例あったそうですが、棄児とは区別して  
います。親の障害の有無は分かりません。  
閑話休題

我々はこの乳児院からスタートする出  
産・育児を完全に回避できるかどうかを検  
討しました。回避できないなら係累が挙つ  
て主張するように、墮胎という選択しかな  
いと考えていました。我々は出産・育児を  
支援するならグループホーム以外の生活  
拠点は考えらえないと判断、緊急に世話人  
さんと夜間支援さんを糾合し、三人をGH  
で受け入れ、子育て支援を継続的に行つて  
くれるかどうか、の一点に絞って検討会を  
重ねました。

支援を決意した最初から、我々は赤ちゃ  
んを乳児院に預けるといふ窮余の逃げ道  
だけは絶対に回避するという意思を固め  
ていました。両親が育児の主役、水土舎は  
全面支援体制を一時たりとも崩さない、と  
いう構図を死守する覚悟でした。

また、水土舎は常にどんなに緊急の際に  
もサポート体制を取るといふ約束を厳守  
する、という水土舎側の決意を世話人会に  
伝え、同時に周囲の反対者にも水土舎が誠  
心誠意の説得を継続すると約しました。最  
終的には、世話人会は長期戦を覚悟で現場  
の子育て支援を承諾してくれました。

それ以降、身内や関係者の反対はあった  
ものの我々は出産準備に入りました。女性  
も福祉と切れていたため、先ず手帳(24年  
12月)と年金(25年2月)を取得。出産後  
は赤ちゃんも子供の年金加算を取得する  
ことができますので、出産後は3人の年金  
の年額合計が約200万円(月々16万7千5  
百円弱、当時)となり、これで出産後の子  
育ての最低の経済基盤が確保できました。  
生まれてくる赤ちゃんを含め三名とも福  
祉医療受給者証(すべての医療費が控除さ  
れる)は取得できる見込みがありました。  
これに二人の給与(年間約300万円)を足せ



ば経済生活の必要条件は満たすと考えました。身重の女性は12月にGHに入居、それ以降、赤ちゃんが保育園に通うようになる1年半後まで、世話人さんの3交代による24時間の支援体制が組み込まれました。出産後の育児も大わらわでした。熱を出すのは夜間が多いですが、富岡総合病院に小児科医は不在で、毎回高崎まで車を飛ばしました。夜間支援員さんと一緒に我々職員が必ず付き添いました。保育園からは、髪の毛が臭いと注意を受けたことがあります

ましたが、(香料付きのシャンプーを使っていた)無香料のシャンプーに代えて非難を交わしました。

育児の現場では世話人さんが中心となり具体的な支援を行いました。母親に入浴の仕方、摂食介助、オムツの変え方など、赤ちゃんの世話をいろいろ教えました。一年があつという間に過ぎ、2歳になるところで赤ちゃんを近くの保育園に預けることになりました。ここで世話人さんと夜間さんの通常の支援体制に戻りました。夜間支援員さん

た。夜間支援員さんや世話人さんが、保育園には母親と一緒に子供の行き帰りに付き添いました。また、保育園の行事や行政サービスを受けるときなどは、常に世話人さん若しくは水士舎の職員さ



んが両親と子供に付き添います。その後も、夜間の病気やひきつけなどには、その都度水士舎職員が駆けつけ対応しています。

最初、県が水士舎のGHにおいて妊娠・出産・子育てを行っていることを知った時、GH担当の県職は烈火のごとく怒りました、『そんな話は聞いたことがない、なぜ無断でそんなことを行つたのだ、(バカヤローは言外の言)』、というわけです。

一つには赤ちゃんが大事に至ってしまった場合、責任は誰がとるのか、また、定



ースが定番です。しかし、我々のケースではGHの世話人さんや夜間支援員や水土舎の職員に支えられながら、知的障害があるとはいえ、両親の庇護のもとに育てられ、皆と同じように保育園に通い、すくすくと成長しました。ささやかですが、世間の通



り一遍に考えられている障がい者の限界

(この場合、知的障がい者の出産・子育ては無理というステレオタイプ化された俗説)とされるバリアーを一つ越えた感があります。娘さんは今年四月に新一年生となり、お気に入りの赤いランドセルを背負って、コロナ騒ぎで遅れてしまいましたが、元気で登校し始めました。

同時期に、残念な例が卓近でおきました。共に養護学校出身のカップルが、人知れず

妊娠・出産し、赤ちゃんは直ちに乳児院に引き取られました。

全国には先進事例がいくつかあります。長年見合い、結婚、子育てを積極的に支援している施設もあります。

水土舎にはそこまでの力量はともありません。しかし、偶発的に降って湧いた妊娠以降の支援は決して中断できません。これからも末永くずっと続けます。新たな決意をもって、学校入学以降の支援の第二ステージに船出を開始します。了



### 【編集後記】

地域生活拠点事業という厚労省肝いりの事業がある。日本中に限なく支援体制をいきわたらせ、親亡き後対策と安心安全な支援体制作りを、地域資源を糾合して共同で行っていくという試みだ。大賛成。富岡でも最近草案が示された。

一つ懸念事項がある。昨年末DVで一人

の女性が警察に逃げ込んだ。療育手帳保持者だった。警察では直ちに市の福祉課に通報し善処を求めた。市も直ちに動いて関係

諸団体に協力を求めた、が、答えは全部No。彼女は警察のソファで一夜を過ごした。

翌日、市の福祉課でなく警察から水土舎に連絡があった。我々は金、寝具、着替え、

何もない彼女を一も二も無く受け入れた。昨年12月の話、Noと答えたのは拠点事業

推進のメンバーで、幾つかはこの市の草案作成に直接関わっている。彼女は元気で楽しく過ごしているのだが、この話、どこか

おかしくないか。草案は口説の徒の作文か剽窃かな？子曰、巧言令色鮮矣仁。呵々。この号終わり。

編集・知的障害者授産施設水土舎

編集人・代表 金谷透

印刷・水土舎印刷室(無断転載禁止)

発行・特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

東京都世田谷区祖師谷三の一の十七の一〇二 一部百円、年間購読料四百円(送料込)